

春まだき

(5)
(中学三年 7/7~12/31)

(とうみ ・ まこ)
 柊実 真紅

目次

(あたらしい ノート。)	1
【 移転 の お知らせ 】	2
(7月)	
(7月)	5
7 / 19	6
歌詞。	8
(8月)	
(8月)	13
.....	14
(9月)	
(9月)	17
.....	18
.....	20
.....	21
ほしいもの	22
9 / 11	23
インナースペース。	24
松原有一君、15才。	26
9 / 25	28
9 / 26	29
9 / 27	30
(10月)	
(10月)	33
10 / 17	34
.....	35
(11月)	
(11月)	39
11 / 6	40
.....	41

.....	43
(12月)	
(12月)	47
.....	48
.....	50
(借景資料集)	
(借景資料集)	53
奥付	
奥付	57

(あたらしい ノート。)

進級記念

二年 八木先生 より

【 移転 の お知らせ 】



諸般の事情により、以下に移転しました。

(詩集1) 『春まだき』

<https://novelpia.jp/novel/3935>

(2023年03月03日)



(7月)

(7月)

(7月)

7 / 19

爆竹

燃える火

詩(うた)

歌(うた)

花火!!

夏の日

野原のキャンプ

行きたい

行きたい

行きたいんだよ!!

爆竹

燃える火

笑い声

空には火の粉

地には歌

笑う少年

火のはぜる音

行きたい

行きたい

行きたい

んだよ !!

少年たちの

笑い声。

歌詞。

1.

ある日 わたしは 虹を見た

はるかな 山の向こうに

ある日 わたしは 雲を見た

はるかな 空の彼方に

ルルル ルル

ルルル ルル

虹を 追いかけて

ルルル ルル

ルルル ルル

どこまでも 歩こう

虹を 追って 行こうよ

雲を こえて 行こうよ

はるかな 夢を見て

歩き出した わたし

いつも 信じていようよ

道は 苦しくても

いつも歌って しようよ

夢と 希望の 歌

ルルル ルル

ルルル ルル

2.

そうよ

わたしは 追いかける

はるかな

山の向こうへ

いつも

わたしは 探してた

はるかな

空の彼方 に

ルルル ルル

ルルル ルル

夢を 追いかけて

ルルル ルル

ルルル ルル

いつまでも歩こう

夢を追って行こうよ

魔法の国探して

はるかな 奇跡 信じて

歩き出した わたし

いつも 信じていようよ

道は 苦しくても

いつも 歌っていようよ

夢と 希望の 歌

ルルル ルル

ルルル ルル

明日の 光 信じて

ルルル ルル

ルルル ルル

歩き 続けよう

(8月)

(8月)

(8月)

ダイヤモンドで 眼鏡を作って

われない 薄い 眼鏡を作って

さあ

旅に出よう

(9月)

(9月)

(9月)

秋の風 吹き

空 薄青く

窓辺に すわる

一人 すわる

旅立ちたい

旅立ちたい

このままで

ここから

歩き始めて しまおうか

金色の髪した乙女が

青い服きて

ゆっくりと

空を 歩いて行く

このあいだの列車で

宇宙（そら）へ 帰ればよかった

今はプラットフォームはない

ない

このままで

ここから

歩いて行ってしまおうか

せまい 小さな地球だけれど

それでも

まだ見ぬ土地が

山とある

歩いて行きたいな...

引き出せば

引き出す程

わたしの内部の

なんと 広く

深いこと

それでも

まだなお

知らないことは

この宇宙より

なお広い。

死を覚悟して

その上で

あきらめはせず

最後まで

ギリギリ一杯 闘おう

生ある者と

明日のため。

ほしいもの

本 うた ペン 紙

絵の具に ノート

休暇 (ひま) 部屋 幸福 (しあわせ)

クラスの友だち

マンガに アニメに

原稿用紙 (かくためのかみ)

夢 風 自由と

友と旅

9/11

夏休みの作文、銀賞だって。

インナースペース。

内的宇宙は 危険な 国よ

使い方 まちがえたら 身の破滅。

生きてる世界と 夢の国

とりちがえたら おおごとさ。

内的宇宙は 不思議な国さ

時間も世界も ごっちゃませ

自分の世界に 帰りそこねたら

そのときゃ そのとき キチガイよ。

内的宇宙は だれでも 行ける

いつでも どこでも 入り口はある

行き方 忘れた おバカさん！

帰って 来れない 気の毒な方！

およしよ およし 不器用な人、

生きてる世界と 夢の国、

区別が つかぬなら 来るのは およし

とりちがえたら 身の破滅

あわれな 末路が 待っている。

内的宇宙は 度胸が いるよ

童話や 絵本とは わけがちがう

自分で 自分を つかんで おける？

そうでないなら くるのは およし

逃げ込む場所にはならないよ。

隠れたいなら よそへ行け。

ここは 勇気と 力を ためす 場所

内的宇宙はすばらしい

ここを抜ければ どこへも 行ける

ミドルアースや ダレムアースにも

イーハトーブもナルニアも ！

松原有一君、15才。

松原有一君、15才、豊田中学校三年生、死亡。

事故で、血友病による出血多量のため。

.....15歳。これからやっと“何か”を始められるようになる年。

どんな気持ちで死んで行ったのか、一面識もないあたしには、知りようもないけれど、

悔しかったろう。

あまりにも早くゆきすぎたもの。やりたいことがいっぱいあったろうに。

生まれてきて、これからが本当の人生だ。

本当に好きなものを見つけ、恋をし、いろんなことを知って、

理想や夢を追いかけて行くんだ。

いろんな事を知るうちには、悲しみもまた大いだらうけど。

事実、昔は遠いことに思えた“死”というものが、空想の事だけでなしに、だんだんと、身近になってくる。

死にたくないな。せめて、物語を書き上げるまでは。

ううん。本当は、“絶対に”って言いたい。

地球が成長して、人類が発展して、宇宙へ出て、目で見、体験して、宇宙人や科学都市や.....。

前から思っていることだけど、知りたいこと、やりたいこと、

全部あげたら キリがない。

長寿人になりたいな.....。

9 / 25

人間一人 死んでも

どうってことも ないんだな。

臨時に 朝会が あったきり、

だれの胸にも ものこらない。

-- わたしが 死んでも こうだろうか。

9 / 26

ただの

「夢見がちな少女」で、

終わりたくない。

この貴重な一生を

なにか一つの事に

懸けてみたい。

だから、

書きなさい。

9 / 27

今日一日、

笑っていること！

理由：5分実行したら、もう気分がよくなったから。

(10 月)

(10月)

(10月)

10 / 17

わ〜い、やったやった♪

恐怖の中間、最終日〜♪

(あとは野となれ山となれ、だ。)

数学の時間、土屋君がね、

グラフ用紙の 1 cm のわくの中には

100個の

1 mm わくが

あるってこと 発見したの。

100 mm² じゃなくて、1 mm² が 100個。

それで

グラフ用紙 全体で 2万 5千個 だかの

ます目が あるって

言ってたな。

大人げない はしゃぎかた

なのは 確かだし、

授業中に何やってるんだ、

と、

言われてしまえば

それまでだけど。

そういう発想法、思いつき。

てやつが 大事なんだよね。

実際、今まで わたし 気づきもしなかったし、

考えたことも なかったもん。

(11月)

(1 1月)

(1 1月)

11 / 6

昔々に うけた傷跡

まだ治らなくて

古傷の痛みが

傷つくことを 恐れさせる

傷つくのが 恐くて

一歩

踏み出すことが

できない

新しい扉

新しい世界

ぶつかって みなさい！

-- 勇気が ない。

勝俣くん

勝俣くん

帰ってきてください

どうぞ

お願い

帰ってきてください

みんなは わからないのでしょうか

なぜ

笑うのでしょうか

笑えるものなら

きっと

その方が 楽に違いない。

勝俣くん

勝俣くん

お願いです

自分を 傷つけないで

それは悲しいから

哀しいことだから

どうか帰ってきて

勝俣くん

みんなには

あなたの気持ちが わからない

わたしの気持ちが わからない

勝俣くん

でも

わたしたちにも

彼らの気持ちは わからない

わたしの気持ちが わからない。

わたしは、人の心の哀しみを、知っている人が好きです。

人間として、とても弱い、哀しい心を持っている人が、好きです。

理由はどうであれ、推測もつきませんが、やりきれない顔をして

かけだして行った 勝俣君。

始めて見た時から、どこか変わったイメージを与えた 勝俣君。

やはり、わたしたちの 仲間 です。わたしと同じ心を持った人。

どうか、自分を傷つけないで。早く帰ってきて下さい。

みんなが あなたのことを 笑っても、わたしは笑えない。

忘れない。あなたが、とてもすばらしい人だと、

気づいたから……。

帰ってこないね。

批判する権利はない。

批判する気はないけど、みんな。

よかった。勝俣君、戻ってきました。

もうすっかりいつもの勝俣君です。

白い歯で、笑いました。

(12月)

(12月)

(12月)

だあれが

わたしの

ノートを

とるの

もしも

わたしが

休んだら

だあれも

わたしの

ノートを

書けない

わたしの

ともだち

いない

から。

批判する権利はないのだからと

自分を抑えてきたけれど

疲れた

もういや

なぜ

わたしだけ

罪の十字架

背負うのだから？

だあれが

わたしの

ノートを

とるの

わたしの

友達

だれも

いない

「わたしの友達」は“わたしの”友達。

いつになったらこの名で呼べる 友人ができるのでしょうか。

わたしは一年間 むだに過ごしたようです。

池ちゃん こと池崎 君。

つどいの原稿にこう書きました。

真実は 孤独なり。

それでも孤独は、真実とは逆のものなのです。

わたしたちをこれほどに苦しめる、“真実”とは、それでは何なのでしょうね。

自分の心を言おうとするのに、なぜ とまどう 必要があるでしょう。

勇気を出して、さあ

発表しなさい。

(借景資料集)

(借景資料集)

(借景資料集)

奥付

奥付

春まだき (5)

../../../../book/21063

: 著者

(とうみ・まこ)

柊実 真紅

as

霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール: ../../users/masatotoki/profile

感想はこちらのコメントへ

../../../../book/21063

電子書籍プラットフォーム: パプー (<https://puboo.jp/>)

運営会社: 株式会社トゥ・ディファクト

春まだき (5)

著 霧樹 里守 (きりぎ・りす)

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
